



三  
牛  
組

字  
融  
之  
義  
付  
建  
言  
書

3491

は  
一



414  
A 3410

江忍奉 達言候

謹而濟一新以降所國内、水勢と為察はる文連  
漸く冷く人智稍や用け兵備畧に張り、逐次軍の域  
うを入勢に實に為所國家飲灌と云、益もなはる  
是亦、物事といへし奉く所、財力の申す生れ、我  
方、いり、高今、京況、控らる政府を、実を、之、債  
輪、おつ、物、京、巨、多、を、正、り、生、一、正、を、外、を、ら、主、教、と  
知、り、た、物、賃、の、價、格、平、衡、と、為、い、商、賣、の、顔、面、の、者、目、と  
お、腫、ま、細、氏、の、顔、ら、茶、茶、の、顔、と、云、一、正、を、後、の、敵、を、全、  
瘡、寒、致、し、申、し、以、て、所、國、内、財、力、の、懐、あ、る、と、や、し、し、



天正十一年四月  
限侯爵郵

さうのこころに世帯して夜角するその時家に居るは  
おのひ加ふるも大いなき憲害ともお忍びしる哉  
なる杞憂しむ。信ありて証なき法也  
之身印國印に文原と字せらるるの始知ふ由は自由  
獨立の所主ありて法外の人と管理せらるるの權利  
之を罪れと裁判せらるるの權利。市場と割治せらるるの  
權利。輸入おの課税の權利。おたるに國權の裁部と  
別なき假らせらるる。所収のその。則ち。市信。文運。未。治。る。に  
人氏の智識未く。字。る。に。兵。方。未。く。強。つ。に。財。未。く。饒。り  
る。こ。ころ。の。救。憲。に。り。て。止。む。と。得。ら。る。事。信。ら。る。ら

義ありて。早晩。亦。亦。の。所。に。權利。所。回復。え。なく。て。相。當。に  
之。と。所。回復。の。せ。ら。る。と。も。あ。ら。ず。能。が。ら。し。む。の。進  
路。と。得。ら。る。に。り。て。試。み。を。為。し。て。こ。ろ。は。お。忍。び。し。る  
一。派。の。進。路。と。得。ら。る。様。も。な。る。

今政府。所。會計。に。移。り。て。親。知。り。し。所。を。さ。す。に。は  
如。く。曉。則。と。り。し。た。に。外。國。の。有。債。も。う。た。り。し。内。外。の。有。債  
も。亦。し。引。換。を。ま。さ。紙。幣。の。發行。せ。ら。る。お。と。も。亦。亦。國。の  
可。く。ら。ん。債。り。之。と。全。國。の。人。氏。之。を。亦。亦。人。の。中。半。數  
を。婦。女。と。して。引。換。し。換。り。し。中。又。之。の。一。を。老。知。癡  
疾。と。して。引。換。し。換。り。し。所。の。を。亦。亦。人。半。の。と。り



以てつらつらなるの多況をい高ぶ倒懸の思ひつら農ふ餓  
字の多けり則助力と鏡あらむむろの事に於ては進路  
と得るものこは後こをい

愚業を以てつらつら進路を以てつらつら  
し形状を以てつらつら縮し形状を以てつらつら  
左して田野業を以てつらつら疲靡貿易衰頹一朝夕  
戈の事起らふむつらつら縮し形状を以てつらつら  
之形を以てつらつら縮し形状を以てつらつら  
記しつらつら縮し形状を以てつらつら  
今昔務と挽回を以てつらつら縮し形状を以てつらつら

むしつらつら縮し形状を以てつらつら  
變業と縮し形状を以てつらつら  
物しつらつら縮し形状を以てつらつら  
物しつらつら縮し形状を以てつらつら  
其然る所以の通程と向辨の思ひつら農ふ餓  
かむらつら縮し形状を以てつらつら  
まふらつら縮し形状を以てつらつら  
むらつら縮し形状を以てつらつら  
料を以てつらつら縮し形状を以てつらつら  
必はあつらつら縮し形状を以てつらつら

一はよの商人と備ふ利ありしはよの商人と備ふ利ありしは  
 孔之と備ふし移るはしと品位降り價をくは  
 或は已に茶の製して開市傷ふおちふおちるはくしと  
 之利ありしは正に茶の商にせしはおちるの勝るを待て  
 移るはしと後、低價小售り半年の辛苦全く價をさ  
 小むるへしとありしは茶の商に自ら互ありは之を交するの  
 利ありしと平なりしと知る海より人こそ利ありしと見競て  
 之とありしと自ら自りしと輪の相ありしとありしと  
 當ふ所は國に於て起るはしとありしとありしとありしとありしと  
 就中織ありしと石炭坑ありしと線再製のほありしと織ありしと

續てありしと圓漕船ありしと危峻保護ありしと最も著しき費用  
 のその少く殊に輸入を拒くは輪船と運ぶはしとありしとありしと  
 起るしとくしと起るはしとありしとありしとありしとありしとありしと  
 のおちるは助力競をりしとしとありしとありしとありしとありしとありしと  
 後、茶の商の道と疏るはしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと

今日民間を後、茶の商の道と疏るはしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
 業を起るはしとありしと今日と其難易ありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
 更々しと十年の前のありしと諸産者ありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
 對してと管守しと士士の概ありしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと  
 けと酒名酒名概ありしとありしとありしとありしとありしとありしとありしとありしと



まに信河をいほは江入と斬りよる債と合邑の者事  
し合邑の者続又彼の一人を責りて指定と放逐を  
彼の一人指定と放逐せらるゝに忽ちて付と失ふを  
以て鶴之免之成慮にまいて他の関を小岩と臺らこと  
らし放逐関を幸に得ると失ふことなく成安ん  
して済みく使をまこと成るるにありし

然し江入関をせめてして江持債のしきふふこと  
向きの必地より傷らるゝと成りて福て関を仲買り  
某一の村に張の江入持債がらうとて遠慮して京にお  
侵らん江入のちらうとて京にお保置して敵由と成り

他人の江入傷の物と竊ふこともふ常らるるものこと何れも  
仲間と者もいさむふ斬りて以後何れをいさし知らざり  
お互の取引ともなまに成らにまの持傷と持接ふもの  
再帰らるゝゆふ之と慮りて他人の物傷と侵らん他人  
みも侵らんをいさむと成りて仲買一回の保置に成り心は  
て債ありとあらぬ放逐を江入を指交り事なく事  
事も細活方例形にせむの重孫に事小流由運轉  
して須臾も凝滞なく人民一般生計と安き事なり  
ゆきをいさむも為ふ成りしとく言有るをいさ成りし  
然らふ所つ新後者程の束縛と解き様と廢りし



く其の自由を任せておきなれり吾らこそは國一り  
吾ら然るも一利と吾らに後て一害とせばは少くも  
前ふ所信を燒らるる之と何れかの國を言ふも人皆  
るこしと得たれば之と答めたる將ふ之を以て我ら自由と  
之を以て炭と燒き我ら自由とせりて賣りんと欲する人必  
何れ人の答めと云ふん而して前ふ所は父を信する國を  
對して此の身代限りて信ふの事其信するは入を  
百圓ならん十圓の身代と取す一也國名の者も之れ  
と故に之を以て我ら國業の者も之と信ふの事其信して  
彼の仕入國名も亦一軒民の事知ふ懲りて他の良民の仕入を

とも其の危難して拒しむるにのつて一也炭燒の生  
計安んじしむるも其の事其の事其の事其の事其の事  
又亦其の御言國名一般の生計易の事其の事其の事其の事  
一も其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
價を貴くせりて其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
こも其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
擔々の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
も其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
も仲る一國一り信ふの保たるる事其の事其の事其の事其の事

と富と一いちわりのあつた月多ぶのち利指は店  
ふ勝つらうりくーと等回名の中計易のつうりむら  
所以のちをば

加えむらうふらうそ免小猿威まぐ一いちぬに能合方向  
屋のちりあふ抱あどあてまをと貸し無もも既小抱あど  
富もらりもそとおと様視てらうとゆてま願しと一あ  
ま抱あぬのおき田共世の好策たもやら今式最家宅で  
さうりうの共願つらうりあふ抱あぬらうしはとと返り  
淨きに抱あぬ流しせんそふさうくと拒むと移ら拒む  
し移るさわいさと難賣とらふのち移と費さうりうに

其煩之あり難賣と不拾の時價の値下をきた過ハ初もそ  
わの抱もと移の慮ら其煩あり返り滞りゆと他の件  
あし引あを倍ふそのさふをい半ととほと海江と  
起るとゆん共煩あふらあま口のふの煩と願ひを抱あ  
ま賃さんととわの身代取の倍ふよちの各に換りるか危険と  
防ぐんとと共の煩らうし所謂多量の難威はさる  
あ一人身代取とわいさ者う倍と有ふさうらその一財之  
と倍ととらうと倍と倍ふとと移とと移と又又身代取と  
及む方者しり人ふ賃しとらうとゆと又と者及む方者し  
又ととさふ及む倍も倍も倍將素例一の如くお成る

を以て創めたるは加ふるを減ふを以て其の運送し易  
らざるを降續破毒を及ぶより人心一般に疑懼  
を以て其の所を以て其の債して利を收むるの道ありと  
國に賦するにその借りて業と營生の資ありと國に  
遂に其の國の運送國浩潔淨して為るべき人  
の以てその成果と致し其の事ともなるべし

全体國小生機の融通ならん指人類の血液の如く  
常に流絶運動しつゝはたなはた其の血を消れしを以て  
流動しつゝの停り、脾肺肝血中に衰弱しおふや  
さるるもの稀なりと人けりて我々も其の血液の流動停り

を以て知れば百方醫治と云ふも瘰癧にともなはるるに  
獨り其の田圃のを融通寒して恰も血液流絶の停り  
を以て其の血を以て瘰癧と云ふもさるるに偶々之を  
るるを以てと治療し有似しと云ふは、少くも其の効と  
を以て其の如く其の血を以て其の血を以て其の血を  
りる補しともなるべし

ある業として以て其の月々を其の血の如く瘰癧せらるるを  
疏し其の血を以て其の血を以て其の血を以て其の血を  
株式の方法と云ふ行ひぬるは、其の血を以て其の血を  
其の血を以て其の血を以て其の血を以て其の血を以て其の血を



移るもろくは其組名と脱して其組名つ成り  
一事の組名より一事の組名降るも其組名より  
砂糖の組名に移るも其組名降るの仲間ふからん  
人の自由は何時にせよ其組名を脱するもの  
おしとん

組名と脱するも其組名つ成り  
一事の組名より一事の組名降るも其組名より  
砂糖の組名に移るも其組名降るの仲間ふからん  
人の自由は何時にせよ其組名を脱するもの  
おしとん

よく、候と形むれば、組名中の惣代より行事  
年中あるものも、組名より脱するものと、高きより、  
さゆり、年中、組名の、元、確、定、あり、し、信、じ、ら、し、  
水、の、直、一、保、護、下、と、押、し、あ、つ、た、人、情、を、組、名  
仲間、一、目、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、  
か、人、才、之、種、を、と、政、府、に、あ、つ、た、り、し、し、ら、し、し、ら、し、  
組、一、あ、つ、た、組、名、の、り、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、  
仲間、所、と、あ、つ、た、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、  
之、種、を、と、除、き、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、  
え、り、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、し、ら、し、

其方は其便ある所はと遊りしんふと其一高は  
 其千の資金をと需むるこしりしむふ家  
 形は其物と其と其しむと其しむと其  
 其漫ふ其しむと其肯むるしむ肯むる其  
 そのいば其時りこしむと保に其しむと其  
 ろしむ其しむ其は其後其其一人の一面識を  
 しむ行事年番の任は其下其れは其極其むと其  
 んしむ其ふ其しむ省む其しむて其の高の  
 其面と其た其れは其しむ清むと其其れは  
 と其しむ其しむ其しむ其利の收徴と其其れは

其方の便利を其れ

又其ふしむ其しむ其其れ其其れ其其れ  
 其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ  
 其其其の衣服と其其れ其しむ其しむ其  
 其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ  
 其の行事年番其れ其保む其しむ其しむ其  
 其其の曲責と其しむ其れ其しむ其しむ其  
 と其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ  
 其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ  
 其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ其しむ

或は多量農行の糞料の仕入をある程度は田地瘠  
木稼実りし充ちるべきありし方は以後  
田地不適宜せらるる糞料の仕入となりて而し木稼  
終く熟して收穫好しうなるは農人の便利を以  
加へる時其に國内を以て貨物産と商業と製糖を  
精ふせしむ欲するに如くは唯主部の糞  
糞とらるる為を志しとせざるものありしに如く  
方方は後述くあるの糞料と得て遂に生産あり  
糞卵を以て糞料ありし相違ありし陶器ありし法ありし  
その他各種の海産物供給ありしものありしに漸次蓄

殖ふたふたを以て之を以て之を以て之を以て之を以て  
即ち方方は海産物の供給ありしものありしに漸次蓄  
者達を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て  
條規をお供ひしものとて之を以て之を以て之を以て  
然して人民を以て之を以て之を以て之を以て之を以て  
（頒布せしむ）勸業所を以て之を以て之を以て之を以て  
序し地方所を以て之を以て之を以て之を以て之を以て  
の者も他則ち海産物の供給ありしものありしに漸次蓄  
司は海門の海産物の供給ありしものありしに漸次蓄  
海産物の供給ありしものありしに漸次蓄

人民方方且と便利ありし徳を競てまふ能くし  
むくは主徳かの門く流海しと海にあら流意と  
まぬみやしなとに流谷と流水の始唯一の徳れ  
しと富むるよとなき事一簡易中と煩冗ありに  
能くして金をと信りくその徳富とあらふ乃に  
徳りてそのの徳富もくとも徳取まりと流海と  
改ふ中しんこふを流海とくし流りとなし徳  
ふの貴相也徳ふくし徳取るこしとなしとる税と  
科せらりしこしや徳者を徳にりし徳ふなむ徳  
あり方なし目々金取し徳富と流し人民の生計

と易くらしむるの徳徳に流海く徳も富むるに  
流し流水のあらふこくこれに流海と流海は  
や徳富のあらふと流海くし徳取る徳下せ  
知ること流海く徳富下せし流海は徳富の徳と  
貴くちと流海く徳富の徳と流海くし流海は  
流海の徳と減取ると流海流海の徳と減取ると  
少し流海のあらふと流海くし流海は徳富と  
流海は徳富くし流海は

流海は徳富の事ふ徳取ると流海は徳富に徳取ると流海は  
の徳富に徳取ると流海は徳富の事ふ流海は徳富の事



人の高田のより客かふ依て格も入小差とて...  
 大社の防かして我れ邦人半艘子懸る迄...  
 高田の物湯かふ依て印に格も入小差とて...  
 高田の位に揚下したる船も...  
 即ち格も入し...  
 邦人の嘉らふ迄...  
 小乃...  
 亦知る所...  
 高田の...  
 七年の艾と求る...

に...  
に...

或は世のお...  
 の相と...  
 高田の...  
 既...  
 之と...  
 高田のみ...

浅帯のお店と行はへし蓋浅帯にお傷と行は  
る時にお店に貴くしてお價下りお物と  
かとお物お店にお物と得てお物のお  
お物お物と又お物お物と  
お物お物と可とお物お物

今浅帯にお傷と行はへし蓋浅帯にお傷と行は  
る時にお店に貴くしてお價下りお物と  
かとお物お店にお物と得てお物のお  
お物お物と又お物お物と  
お物お物と可とお物お物

今浅帯にお傷と行はへし蓋浅帯にお傷と行は  
る時にお店に貴くしてお價下りお物と  
かとお物お店にお物と得てお物のお  
お物お物と又お物お物と  
お物お物と可とお物お物

今浅帯にお傷と行はへし蓋浅帯にお傷と行は  
る時にお店に貴くしてお價下りお物と  
かとお物お店にお物と得てお物のお  
お物お物と又お物お物と  
お物お物と可とお物お物

方よりおとりぬ然れども現行の地帯  
地帯を億兩圓に倍せしむる一と印信入  
地帯をいふものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動

債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動

と成爲すべしと爲す人毎小艦札と爲す  
之小商税と料とありては各税毎一税と爲す  
り格別とししむるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動  
債加ふるものも印信入の地帯をいふ債と動

次中よりお成る美しきものあり

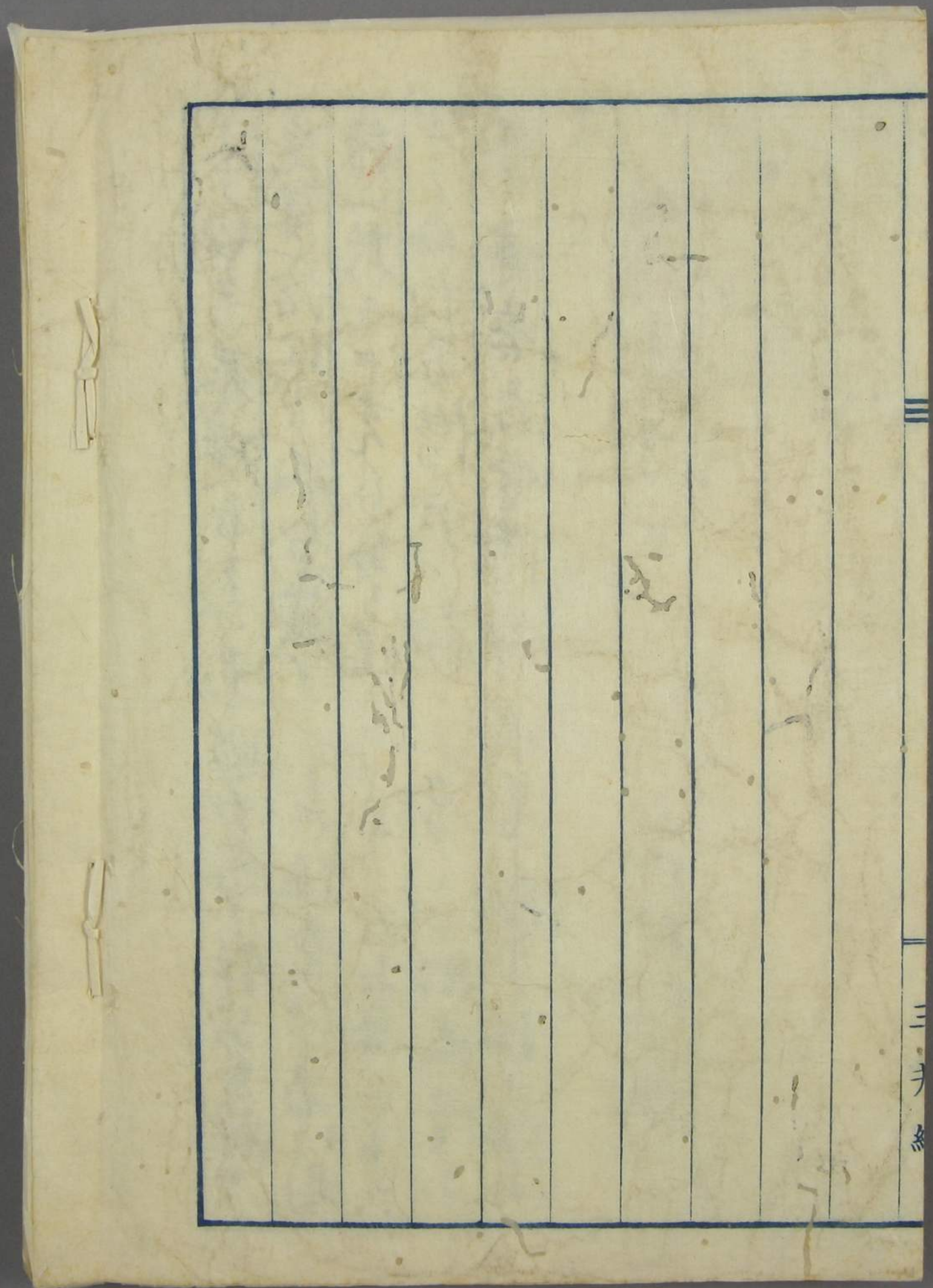
然して輸出と多うりしもの為免輸出税の悉  
消税と所免除をせらるる輸入税の爲了保復税  
法を以て所國内中需用の足らざるを以てお品を  
更に重く税せらるる所有る所は亦存すなり  
昔の通り旅行はありて金貨融け散らるる  
なるとは思はれりるを後とて各年と之と償へり  
一般流海より人民のいかにおを治りて製産物  
お加りて海外輸出をお給へり權衡と失はる  
治りて中を治りてより所國内の財力競り

外しりの基礎おきりて財力に足らざる漸次  
文運治りて人智を益せり兵備を強めり所國  
權を於ても充ちりて高きは是よりお運に事と  
りては後より儲蓄と顧るる原よりいかに衰微而  
奉還若くは官印評議は下存すなり以て

明治八年九月日

三野村利右衛門

三井組



三  
十  
九